1. 評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成２０年　３月１６日

【評価実施概要】

事業所番号	０７７０４０３０８７		
法人名	医療法人　松尾会		
事業所名	グループホーム　まつの実		
所在地	〒970-8026　福島県いわき市平愛谷町四丁目2番地の３ （電　話）0246-35-0030		
評価機関名	ＮＰＯ法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043　福島県福島市中町4-20　みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】（平成20年12月26日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　１７年　４月　１日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤　11人，非常勤　10人，常勤換算　16.4人	

（２）建物概要

建物構造	軽量鉄筋　造り
	2 階建ての　1 ～ 2　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	39,000　円		その他の経費(月額)	水道光熱費　6,000　円
敷　金	有（　円）	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり	円		

（４）利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護１	2 名	要介護２	3 名		
要介護３	8 名	要介護４	4 名		
要介護５	0 名	要支援２	0 名		
年齢	平均　86.7 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人　松尾会　松尾病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が経営する事業所であり、同法人の病院に併設している。医療面では２４時間サポート体制となっている。事業所は閑静な住宅街にあり近くには自然豊かな公園や保育園があり、地域的にも恵まれた環境である。管理者はじめ職員は利用者本位のケアの実践に真摯に取り組んでおり、ヒヤリハット等の内容分析から事故防止に繋げる仕組みを確立している。法人内でも毎年ヒヤリハットの分析結果を発表し、仕組みの改善やサービスの向上に繋げている。また、管理者を中心に職員のコミュニケーションが良好で利用者の表情が穏やかでなごやかな雰囲気である。利用者はゆったりと過ごしており、家族も安心して委ねているのがうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果を全職員で話し合い改善に向けて取り組んできたが、運営推進会議についてはまだ定期的な開催とはなっていない。同業者との交流についても交流はされていない。介護計画の見直しについては改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部４）
	管理者や職員は自己評価の意義を十分に理解し、自己評価には全職員で取り組み、改善すべき事項について再認識し、サービスの質の向上に努めることにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	運営推進会議の内容は利用者の状況、運営報告、行事報告、防災訓練の報告をしており、委員からは地域行事への参加等の助言や意見が出されている。しかし定期的な開催とはなっていない。今後は計画的に概ね２ケ月に１度（年６回）開催されることが望ましい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	運営推進会議や面会時に家族からの意見の把握に努めている。家族から利用者が毎年楽しんでいたじゃんがら念仏踊りを見せたいとの要望があり、実現に向けて取り組み青年団によるじゃんがら念仏踊りの披露が実現した。また、獅子舞の披露もあった。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	隣組にも加入しており地区の各種行事（運動会・カラオケ大会、月１回開催される長寿会等）に積極的に参加し、交流している。近隣の保育園とは定期的に交流している。事業所の行事は近隣住民に呼びかけ、事業所と地域住民との双方向のコミュニケーションをとるよう努めている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスをふまえた理念を作成しており、日々のケアの指針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や共用空間に掲示して職員全員が日々理念の共有に努めており、サービス提供の場で理念の実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組にも加入しており地区の各種行事（運動会・カラオケ大会、月１回開催される長寿会等）に積極的に参加し、交流している。近隣の保育園との交流では、園児たちが発表会の演目を披露してくれたり、事業所の行事へ招待したりと定期的な交流となっており、利用者も園児たちにとっても楽しいふれあいの場として定着している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については日々のサービスを振り返りながら全職員で取り組んでいる。前回の外部評価の取り組みを期待したい事項については、運営推進会議の年６回の開催や同業者との交流はまだ実行されていない。	○	外部評価の結果を法人はじめ全職員で協議され、改善に向けて取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を２回開催し、３月に第３回目の開催を予定している。委員から地域の行事への参加についての助言があったが具体的に日常のサービスに活かすまでには至っていない。	○	運営推進会議は外部の人々の目を通して地域の理解と支援を得るための貴重な機会と捉え、年間行事の中で計画（例　偶数月の第３木曜日等）し、２ケ月に１度（年６回）開催され、サービスの向上に役立てられることが望まれる。
6	9				
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に１度利用料金を請求する際に、利用者の状態や金銭管理について報告している。また、面会時には詳細に報告しており、遠方の家族には電話等で報告している。行事等は[まつぼっくり通信]で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に家族の意見の把握に努めている。家族から要望があり、青年団によるじゃんがら念仏踊りを実施した。また、獅子舞の披露もあり、地域住民や保育園児にも呼びかけ一緒に楽しんだ。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は利用者と職員の馴染みの関係の重要性を認識しており、職員の異動については十分配慮している。ユニット間の異動については常に交流し利用者のダメージを少なくするよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については積極的に参加しており、参加者は報告書を提出し、職員会議等で報告している。また、法人内の研修にも交代で参加しており、事業所独自の内部研修も必要に応じて開催している。今後はすべての研修会の実施記録を残されることが望まれる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加盟しており、情報の提供はあるが、職員同士の交流はしていない。	○	事業所の質の確保のためには同業者との交流や連携は不可欠であるので、他の事業所と交流し、サービスの質の向上に努めて欲しい。福島県認知症グループホーム連絡協議会への参加等を検討されてはどうか。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者と共に料理、畑、園芸、健康体操等を一緒に行っている。利用者からいろんなこと（行事食やしきたり等）を教えてもらい、お互いに支え合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者との会話を重視し、常に話かけるよう心がけている。会話の中から利用者の思いや意向を聴取し、生活リズムを把握し利用者が快適に生活ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の行動や職員の気づきをケース記録に細かく記入し、面会時に家族の意向を聞き取り、医師や関係者と話し合って利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しのほかに利用者の状態の変化に応じて、利用者や家族、医師と話し合いをし、随時、新しいサービス計画を作成している。援助目標を具体的な言葉で表現すると、より良いサービスに繋がると思われる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどが法人が経営する病院を受診しており、週１回の往診もあり、２４時間対応可能な体制になっている。年２回の定期健診も実施している。また、利用者のかかりつけ医の受診も支援しており、受診には家族と職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する指針を定めており、利用者や家族に説明している。ターミナルケアの家族の意向については確認している。終末期に起こりうる様々な事柄に対応できるよう職員間で情報の共有をしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っており、会話のトーンにも配慮している。また、個人情報についても十分注意し適切な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や起床など利用者の生活のリズムに合わせた支援をしており、職員は常にその人らしさを発揮できる場面作りを心がけている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の準備、下膳等自分のできることを職員と共に自然に行っている。職員は同席し食事の支援をしているが、一緒に食べていない。利用者からは「どうして食べないの？いつ食べるの？」と職員に話しかけていた。	○	食事は利用者にとって生活の中で重要な位置を占めているので、職員と一緒に食事を味わい、食事が楽しいものとなるような支援が必要と思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認しながら入浴支援を行っている。入浴拒否者には時間をずらしたり、別の職員が声かけし入浴を促している。体調により入浴できない場合には、清拭や就寝前に足浴を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	裁縫、畑仕事などその人に合わせた楽しみごとや趣味が続けられるよう支援している。日用品の購入には職員が同行し利用者が支払っている。また、利用者同士お互いの部屋を訪ねておしゃべりを楽しんでる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	日常的に買い物、散歩等入居者の希望に合わせて支援している。季節ごとに初詣、お花見、花火大会見物、三島神社祭見学等を実施している。また、事業所全体でドライブ等にも出掛け、外出の機会を多く計画し実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの出入り口は施錠しておらず自由に行き来している。玄関が道路に面しており、家族の了解を得て玄関は施錠している。安全確保のためにはやむを得ない措置と思われるが利用者の外出を妨げない支援が望まれる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画に基づき、消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、避難時間を短縮するなど成果をあげている。応急救護の研修会には毎年職員が交代で参加している。また、災害に備えた食料品、飲料水等は隣接する法人の病院と共同で備蓄している。		日頃からあらゆる場面を想定して訓練を実施されることが望ましい。また、災害時に地域住民の協力を得られるよう働きかけが必要と思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の量をチェック表に記入し、定期的に体重測定をして利用者の健康管理に役立てている。利用者の状態により水分摂取量等については医師からアドバイスがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のテーブルはグループごとに配置され、利用者同士のコミュニケーションに配慮されている。家庭的で落ち着いた雰囲気であり、共用空間には気になる臭いや空気のよどみなどは感じらず清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台とクローゼットが備え付けられている。利用者はテレビや使い慣れた椅子や炬燵等を持ち込み、各自個性的な居室となっており、利用者が居心地良く過ごせるようになっている。		

※ ▨ は、重点項目。

３ 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名　グループホームまつの実

記入担当者名　若月 香里

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。